中川順子先生の研究業績の紹介

斎藤　真緒*

中川順子先生は本日の講演のテーマにある“ジェンダー”という言葉がまだ浸透していない頃から女性の問題，特に労働者家族の中の女性の問題，家族生活について研究を続けてこられました。日本社会学会，関西社会学会のほかに社会政策学会，労働社会学会にも所属され，主要な研究としては，1990年の『家族生活と地域生活』，’96年の『転換期の社会と人間』，’99年『21世紀のジェンダー論』の中でその研究成果を発表されています。また北海道大学の大学院生時代からさまざまな社会調査に関わられ，トヨタ自動車の労働者家族，生協運動に携わる主婦の調査，阪神・淡路大震災後の家族の生活再生プロセスの研究など，常に実証的な立場から研究を続けられています。労働・家族・地域の３つの領域を常に視野に入れて研究を続けられ，数多く成果を残されております。2001年には福井県上中町男女共同参画プラン策定委員長として陣頭指揮を執られ，住民意識調査をはじめプランの策定に関わられました。研究を実際に社会活動として実践されてこられた先生でもあります。

1994年９月から半年間，ノルウェーの労働調査研究所に研究員として所属され，ジェンダーや家族政策の国際比較についても研究してこられました。昨年出版の『世界の女性労働』の中でも，ノルウェーの女性労働について担当執筆されています。

私は2001年までの５年間の大学院時代を中川先生のもとで勉強させていただきました。この場に同席させていただき，先生の研究についてご報告をさせていただくことを本当にうれしく思っております。多岐にわたる先生のご研究，成果の中で培われた知識，研究に対する姿勢を未だ十分に吸収できていませんが，今後とも先生の研究に学び続けていきたいと思っています。これからも一緒に研究をさせていただければと思います。以上で中川先生の研究業績の紹介に代えさせていただきます。

＊立命館大学産業社会学部助教授